令和4年度　学校経営計画・学校評価シート

高知県立高知若草特別支援学校子鹿園分校

《高知県の教育の基本理念》	(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材	《目指すべき姿》	学校像	○児童生徒が自己実現を達成できる学校 ○保護者が成長と発達を実感できる教育を行う学校 ○地域になくてはならない存在として愛される学校 ○教職員が仕事に誇りをもち、やりがいを感じる学校	目指すべき姿の概要	目指すべき姿の概要に
《取組の方向性》	<第3期高知県教育振興基本計画　基本方針と横断的取組> ①チーム学校の推進 ②厳しい環境にある子どもたちへの支援や子どもの多様性に応じた教育の充実 ③デジタル社会に向けた教育の推進 ③地域との連携・協働 ○学校における働き方改革の推進		児童生徒像	〈知〉自ら学ぶ ○学ぶ楽しさを感じ、自ら進んで学習する意欲や態度を身につけた児童生徒 ○社会生活に必要な知識や技能、態度を身に着けた児童生徒 〈徳〉意欲・協調・協力 ○人や環境と積極的に関わり、自立し社会参加しようとする意欲を持った児童生徒 ○お互いを認め合い、思いやりの気持ちで協調・協力しようとする児童生徒 〈体〉健康・体力 ○卒業後も一人一人の持てる力を発揮し、将来にわたって豊かに生きるため、健康や体力、基本的生活習慣を身に着けた児童生徒		(1)学校教育目標、教育課程、日々の授業のつながりを意識したカリキュラムマネジメントサイクルの確立による児童生徒一人一人の実態に応じた教育課程の編成 (2)卒業後の自立と社会参加を見据えた教育の充実と豊かな心の育成 (3)教員の専門性の向上と指導力の育成 (4)児童生徒の命と人権を守る安心安全な学校づくりの推進 (5)特別支援教育のセンターとしての支援機能や情報発信、保護者・関係機関等との連携による開かれた学校づくりの推進 (6)学校教育目標の達成をめざし、やりがい、働きがいのある学校組織の運営と働き方改革の促進

《重点取組項目》

（中間評価）①②・・・目標に対応した成果　■課題

（評価　A:目標を十分に達成　B:ほぼ目標を達成　C:やや不十分　D:改善を要する）

項目		取組ねらい 【P】	現状と目標【評価指標】	具体的な取組内容 【D】		中間評価 【C】	中間評価後の取組内容【P・D】		年度末評価 【C】		学校関係者評価		見直しのポイント 【A】
専門性の向上	教育課程の改善	主体的、対話的で深い学びの視点での授業改善とその評価を教育課程の改善につなげ、よりよい教育課程を編成する。 【R2～4】	(現状・課題) ・学習指導要領に沿った3つの柱での目標設定、3観点評価が定着してきている。全教員が単元・評価計画作成により単元を見通したつけたい力を検討し、授業のねらいを明確にして評価方法や評価時期を意識した授業が増えてきている。 ・各教科の目標内容詳細表（Ⅱ類型）の作成を通して、学習指導要領に基づいた目標設定が浸透してきた。 ■個別の指導計画を踏まえ、指導内容を十分に検討した年間指導計画の作成には至っていない。これまでの活動や単元ありきの計画となっている場合がある。（Ⅱ類型） ■教科横断的な指導の検討と実践(Ⅲ類型) ■学習評価を教育課程の改善につなげる視点（サイクル）が不十分 (目標) ①学習評価への理解を深め、教育課程の評価・改善につなげる。 ②授業づくりのPDCAサイクルを徹底し、主対深の視点での授業改善を図る。 ③若草3校で教育課程実施上の課題を共有し改善のための検討を行う。 ④卒業後を見据えたキャリア教育の充実を図る。 ◆環境教育について学校の取組を整理し、教員対象の研修会を実施する。	①学習評価を教育課程の評価・改善へ ・学びの履歴(教科一覧)を活用した年間指導計画の作成と修正。 ・単元を見通した学習評価の充実 単元・評価計画の作成 具体的評価規準の設定 評価時期,場面,方法の明確化と共有 評価の検討と手立て(指導)の検討 ・教科横断的な視点での検討と振り返り ・教育課程改善シートの活用と改善 ・目標内容詳細表の作成（継続） ②授業づくりのPDCAサイクルを徹底し、主対深の視点での授業改善を図る。 ・単元・評価計画を活用した公開授業 (まとめシート 見合う環境づくり) ・研究協議の実施、授業改善シート活用 ③若草3校で、教育課程実施上の課題を共有し改善のための検討を行う。 ・3校カリマネ委員会の実施 ・校内ミニカリマネ委員会の実施 ④卒業後を見据えたキャリア教育の充実 ・「子鹿キャリアプラン」を作成し、教育課程上に位置づける。 ・キャリアパスポートの作成と活用 児童生徒自身による取組の記録と蓄積	B	①Ⅱ類型の全児童生徒の学びの履歴を作成、指導計画作成の資料として保存し、共有できるようになった。 ■学びの履歴と年間計画がリンクする仕組みや周知が必要。 ①目標内容詳細表の作成を進めている。 （中社会、理科を作成中） ①②全教員が単元・評価計画表を作成し、公開授業を進めている。 ■単元評価計画の活用が課題 ・授業の実態に合わせていくつかの様式が選択ができるように検討、修正する。 ・使ってみてのメリットデメリットを検証し、改善につなげる。 ②公開授業まとめシートを作成周知し、7月より公開授業を開始。協議の視点を明確にして研究協議を進めている。 ④「子鹿キャリアプラン」案の検討中。キャリパスポートの活用を開始した。 ■児童生徒が使いやすいものになるようキャリアパスポートの様式の修正が必要。 ④知的教育課程のキャリア発達段階表の見直しを進めている。 ④事業所の見学報告を作成中。	①「学びの履歴」を年間指導計画に活かせるよう、様式の修正や、年間指導計画作成につなげるシステムの構築を検討する。 ①単元・評価計画表の様式や使い方について検証し、改善を図る。 ①2学期末に教育課程改善シートを活用して日々の学習成果から教育課程を振り返り、見直し改善を行う。 ①②公開授業と、研究課題を明確にした研究協議を行うことを通して、教員が、単元を通して児童生徒につけたい力を明確にすることや学習評価への理解を深め、授業改善を進める。 ③若草3校の取組を共有しあうことにより、改善点を検討してより良い取組につなげる。。 ④キャリア発達段階表、「子鹿キャリアプラン」、キャリアパスポート子鹿版の様式を完成させる。					
専門性の向上	自立活動の指導の充実	教科学習を後ろ支えする自立活動の指導内容の充実。	(現状・課題) ・流れ図作成の流れの見直しにより、指導目標が焦点化されてきた。また、目標が焦点化されたことで「時間の指導」の指導内容を明確にした指導が増えてきた。 ■作成・提出のスケジュールの変更があり負担感があった ■「時間の指導」と教科等における「配慮事項」のとらえ方が不十分。 ■複数担当の場合、指導目標や内容の共有に課題がある。 ■教員が、指導内容や評価について不安を感じている。 ・センターとの連携により指導やアドバイスを受けて校内で共有し、日々の指導に活かすことにつながっている。 ■卒業後や退所後を見据えた指導について共通理解が必要。 (目標) ①流れ図の作成と見直しを通して自立活動の指導の充実を図る。 ②肢体不自由教育に関する専門性の向上 ③療育福祉センターとの連携を深め指導内容の充実を図る。	①流れ図の作成と見直しを通して自立活動の指導の充実を図る ・作成、見直しのスケジュールの明確化 ・協働性に基づく作業による他教師の見方を学ぶ機会の確保 ・自立活動の「時間の指導」「学校生活全体を通じた指導」教科の指導における「配慮事項」「合理的配慮」の関係理解 ②肢体不自由教育に関する専門性の向上 ・研修の計画的実施 ・外部専門家の活用 ・校内体制の見直し（助言をもらう機会や指導を見合う機会の工夫） ③療育福祉センターとの連携を深め、指導内容の充実を図る ・病棟、リハビリ部との担当者会の実施 相談と連携(児童生徒の課題の共有)	B	①流れ図作成のスケジュールを明確化し、計画的に実施したことにより、クラスで児童生徒の実態や課題、指導についての協議を深め、共有することができた。 ①児童生徒全員の流れ図の作成を通して、目標、指導内容の修正と設定を行い、個別の指導計画に追記できた。 ②コミュニケーション、授業づくり、身体への支援に関する校内研を計画的に実施したことにより、基本的な知識や技能を学ぶことができた。 ②自由参加の研修への参加者が増えた。 ■自立活動についての研修を年間を通して継続し、引き続き理解を深めていく必要がある。 ③病棟、リハビリ部との担当者会を計画的に実施、課題や取組を共有できた。	①新たに設定した自立活動の目標達成に向けての指導と評価を行い、クラスで共有しながら自立活動の指導のPDCAサイクルを確実に回す。 ①教員が相互に見合える指導の工夫を行い、児童生徒の課題を共有し、指導の充実につなげる。 ②校内研修や自立活動充実事業等の活用を通して、引き続き、肢体不自由教育に関する専門性を高める研修を行う。					
専門性の向上	ＩＣＴ活用の推進	児童生徒の目標達成のための手立てとしてのICT機器の利活用の推進。	(現状・課題) ・I情報・ICT推進係を新設、研修の実施により、全教員の基本的操作方法についての理解が進んだ。 ・一人一台端末の活用のための手続きやマニュアルは一定整えることができている。また、活用を確実に進めるために「こじかchrome教室」を計画実施し、児童生徒の機器活用のきっかけづくりとなっている。 ■教員によって活用状況に差がある。 ■効果的な活用方法や障害の重い児童生徒に対する活用方法で悩んでいる。 （目標） ①授業の目標達成の手だてとして、ICT機器の利活用を推進する。	①授業の目標達成の手だてとして、ICT機器の活用を推進する。 ・基本的研修の実施（継続） クローム活用研修（スライド、ドキュメントの操作、互換性） ・授業実践の公開・体験と活用 （授業公開、実践発表、他校の実践紹介） ・「こじかクローム検定」の継続 ・相談体制の工夫	B	①9月までに３回の研修を実施、校内の実践発表を行うことで、参考にした取組や学び合いが広がっている。 ①クロームブックの使い方について継続的に学ぶことで、一人一人の活用が進みつつある。 ■教員によって活用状況に差がある。 ※SAMRモデルアンケート実施 自分のICT活用の段階を知ることで、教員が実践力を向上させるための取組への見通しを持つことにつながっている。	①校内研修で設定したグループごとに、ICT活用授業を参観しあい、取組を共有することで活用の幅を広げる。 ①それぞれの教員の課題に応じた内容で、1回15分、自由参加のミニ研修会を実施する。 ①子鹿クローム検定を2学期に実施する（中学部）。 ※SAMR モデルアンケート（３回目）を実施する。					
働き方改革		子どもに向き合う時間、自分自身を高める時間の確保と、一人一人の力が生かせる職場づくりを行う。	(現状・課題) ・効率的効果的な働き方に対する教員の意識が高まりつつあり、19時最終退勤、月1回18時退勤、会議の精選と時間設定等の取組がスタンダードになってきた。 ・一人一人の役割分担が意識され、学部、学級、分掌の長を中心とした経営力が高まってきている。 ・3校協働により業務の負担軽減につながった。 (目標) ①教職員一人一人がワークライフバランスを意識した働き方を実践する。 ②効果的、効率的業務のためにチーム支援を行う組織体制づくりと業務分担の推進。 ③本校・分校よる共同・協働業務を検討し、各校の教育活動の交流による質の向上と業務の効率化を図る。	①教職員一人一人がワークライフバランスを意識した働き方を実践する。 ・定期的な業務の振り返りと見直し ・得意を生かした働き甲斐づくり ②効果的、効率的業務のためにチーム支援を行う組織体制と業務分担の推進。 ・業務進捗シートの活用 ・業務分担の明記 ・基本ルールに沿って職員室の机上の整理整頓と維持を行う。 ③本校・分校よる共同・協働業務を検討し、各校の教育活動の交流による質の向上と業務の効率化を図る。 ・ポッチャ交流・作品交流・進路指導 教育相談	B	①1学期末に働き方改革についてのアンケートを全教員に実施し、できる改善に取り組んだ ・男性、女性休憩室の整備 ・単元評価計画の様式の見直し（選択制） ・単元評価計画作成日の設定（月1回） ②各分掌部等での会議の計画的実施や時間短縮の意識が浸透してきた。 ②分掌部の業務進捗シートの活用や役割分担が進み、部長を中心にした分掌部運営ができつつある。	①運営委員会でのワークショップを行い、意見を徴収して業務改善につなげる。 ②各分掌部とも、業務進捗シートを確実に記入し、次年度への引き継ぎにつなげる。 ③若草3校による、ポッチャ大会、4校合同作品交流会を2学期中に実施する。 ③高等部入学選考に関する実務を本校と協働で行い効率化を図る。					